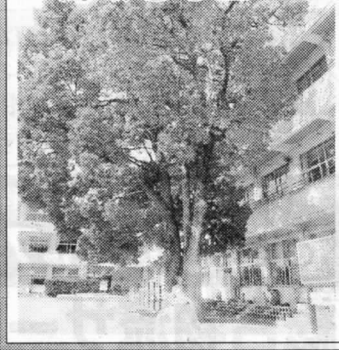


# クスノキのように大きく育つ!

## 能登川南小 100歳の誕生日祝う

猪子山の五つの峰に抱かれて、大正二年四月一日に佐野尋常小学校と山路尋常小学校が統合し、能登川南小学校(溝江透校長)の前身である「五峰尋常小学校」が誕生してから百年。さらなる百年のために先人たちが築き上げた美しき歴史と伝統をつないでいこうと、卒業生・在校生・地域住民が手を取り合って「能登川南小学校創立百周年記念事業」を展開した。



◆愛される学校へ  
在校生六百四十四人と教職員に加え、歴代校長や卒業生、保護者も駆け付け、節目の年を祝う「記念式典」が二十二日に能登川南小学校体育館で開かれた。創立百周年記念事業実行委員会・田附昂夫実行委員長(同窓会会長)は「これからも地

域の子どもたちの健全育成の場としての役割を全うしてくれることを信じている」とあいさつ。来賓の小椋正清・東近江市長が「校庭のクスノキのように、子どもたちが大きく健やかに成長されるよう願っている」と祝辞を述べ、校長として勤務経験がある東近江市教育

委員会・市川純代教育長は、地域から愛される学校であり続けるために「おかげさまの心を忘れないでほしい」と児童に呼び掛けた。

続いて、今でも南小が大好き」と語る卒業生・田附弘子さん(73)が、裸足で走るのが当たり前だった運動会や家事を手伝うのが子どもの仕事であった時代背景などが在学時の思い出を披露。時代が変わろうとも、仲良くする、我慢する、先生の言うことを聞く、ありがとうを言うといった心を大切に育めば、立派な大人になれる」と強調し、南小の合言葉「みんな仲良く磨き合い」の実践を促した。

先輩たちの言葉を受け、児童代表の六年生組・園田彩菜さんが「現在の学校では、滋賀県から認定されたエコスクールとして『緑を育て、川を守り、地域にやさしい学校』を目指

し、地域のみなさんとともにさまざまな取り組みをしています。地域の自然をたくさん調べ、ますます能登川南小学校のある地域のこ



児童を代表してお祝いの言葉を述べる園田さん

とが好きになり、守っていかねばと考えられています。次の百年も伝統を大切にしながら新しいことにも挑戦し、大きく成長していきたいと思っています」と決意を語り、「これから私たち児童を見守ってください」と求めた。また、式典後、マリ

ンバカンパニーを招いての記念演奏会が行われ、児童らは目と耳さらに想像力を働かせて音楽を楽しんだ。

◆心を温める一夜  
翌二十三日には、全校児童から募集した原画をキャンドル約一万



100年の歩みを写真で振り返るパネル展

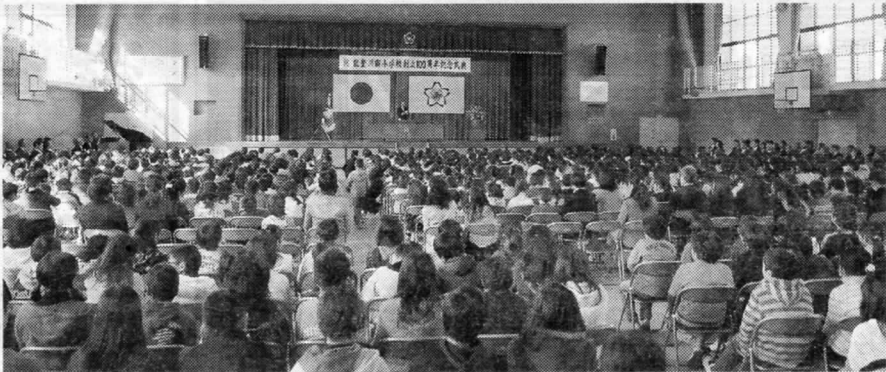


初を試みとなったキャンドルナイト

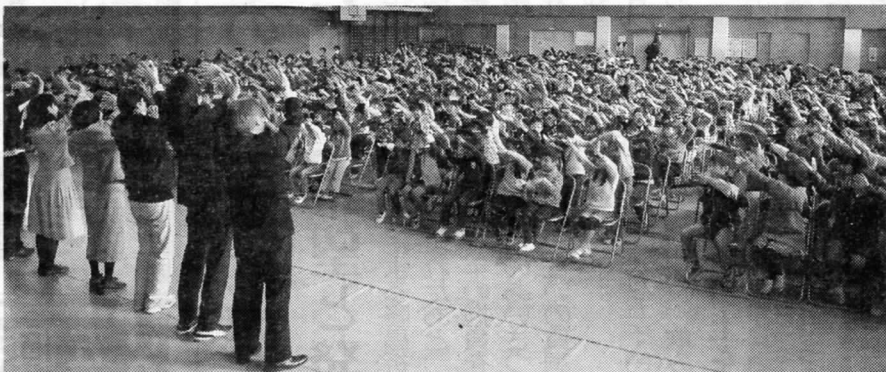


運動場に出現したキャンドルによる巨大絵画

念式典  
▶能登川南小体育館で開かれた記



▶マリンバカンパニーの演奏に合



わせて元気よく踊る児童たち

「キャンドルナイト」という新しい事業をPTAが試みたように、子どもたちにもいろいろなことにチャレンジして欲しい」と話していた。

校歌の歌詞にある「感謝の心」を胸に刻み、百歳の誕生日を祝

える喜びをかみ締めながら、児童をほしめ地域住民らはさらなる飛躍を誓い合った。